

論文審査の要旨

愛知学院大学

報告番号	甲 第 1 号	論文提出者名	中村 一仁
論文審査 担当者	主査 佐藤 雅彦 副査 加藤 宏一 田中 基裕 山村 恵子		
論文題名	地域医療における医師と薬剤師の共同薬物治療管理体制の構築とその意義		

インターネットの利用による公表用

本研究は、地域医療における患者への医薬品使用の適正化に向けた医師と薬剤師の共同薬物治療管理体制の役割について検討したものである。本研究では対象医薬品として、アルツハイマー型認知症治療薬であるドネペジル塩酸塩と脳血管疾患の治療及び予防に使われているワルファリンカリウムの2種類が用いられた。

まず、アルツハイマー型認知症患者を対象とした医師と薬剤師の共同薬物治療管理におけるドネペジル塩酸塩の適正使用が検討された。医師との情報共有の手段として生活の様子確認票が貼付されたお薬手帳を活用し、状態に応じて、薬剤師から医師へドネペジル塩酸塩を 5 mg/day から 10 mg/day へ増量提案できるように医師と薬剤師の共同薬物治療管理体制を構築した。調査対象患者は、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制に基づいてドネペジル塩酸塩を 5 mg/day から 10 mg/day に増量し、その後 16 週間継続して調査できた 27 名とした。評価項目としては、ドネペジル塩酸塩 10 mg/day へ増量後の認知症の重症度、嚥下機能、介護負担度の変化及び副作用の出現状況を用い、それらについて検証した。

ドネペジル塩酸塩の増量開始後 16 週までに、27 名中 20 名の認知症の重症度が改善した。特に、時間/場所及び会話などの日常生活動作に関連する項目の改善が顕著であった。さらに、患者の否定的感情による介護負担及び社会的支障による介護負担が、増量後に有意に低下した。嚥下機能に異常が認められた患者も、増量後 4 週から 16 週までに有意に改善した。また、増量後、一部の患者に副作用が出現したものの、16 週までにほとんどの副作用が消失した。

これらの結果より、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制下で、ドネペジル塩酸塩を 5 mg/day から 10 mg/day に増量した結果、認知症の重症度、介護負担度及び嚥下機能の改善が見いだされた。このように、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制は、客観的な数値に基づく医師と薬剤師の情報共有によって、ドネペジル塩酸塩を適切に増量でき、治療効果の向上に繋がることが判明した。

次に、脳血管疾患の患者を対象とした医師と薬剤師の共同薬物治療管理におけるワルファリンカリウムの適正使用が検討された。薬剤師による PT-INR（プロトロンビン時間国際標準比）の自己測定の実支援とお薬手帳（施設間情報連絡書）を活用し、状態に応じて、薬剤師から医師へワルファリンカリウム処方（用量）変更を提案できるように医師と薬剤師の共同薬物治療管理体制を構築した。対象患者は、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制下で POCT（臨床現場即時検査）機器を用いた PT-INR の自己測定の必要性を医師が認めたワルファリンカリウム服用患者 12 名とした。評価項目としては、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制導入前後におけるワルファリンカリウムに関する理解度及び TTR（PT-INR が適正閾に収まる日数が全診療期間に占める比率）、ワルファリンカリウム服薬率、PT-INR 測定回数、ワルファリンカリウム処方（用量）変更回数並びに副作用の出現を用い、それらについて検証した。

医師・薬剤師共同薬物治療管理体制の導入後、ワルファリンカリウムに関する理解度は導入前と比較して有意に向上した。しかしながら、ワルファリンカリウム服薬率には変化が認められなかった。また、PT-INR 測定回数とワルファリンカリウムの処方（用量）変更回数は、いずれも有意に増加した。ワルファリンカリウム服薬患者 12 名のうち 9 名において、ワルファリンカリウムの処方（用量）が変更された。さらに、この 9 名の TTR は有意に改善した。

一方、対象患者 12 名中 2 名の患者に、皮下出血の副作用が出現した。この皮下出血を見つけた薬剤師は、医師に健康食品の中止やワルファリンカリウムの減量提案について情報提供を行い、その後皮下出血が消失した。

これらの結果より、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制下、薬剤師がワルファリンカリウム服用患者の診察前に PT-INR を把握し、お薬手帳（施設間情報連絡書）を活用して、医師にワルファリンカリウムの適正投与量の提案を含む情報提供及び患者指導を行うことで、ワルファリンカリウム服用患者の服薬アドヒア

ランス並びに治療効果の向上に繋がることが判明した。このように、医師・薬剤師共同薬物治療管理体制は、ワルファリンカリウムの適正使用を推進する上で有用であることが示唆された。

以上の結果より、ドネペジル塩酸塩及びワルファリンカリウムの服用患者において、お薬手帳（施設間情報連絡書）を活用した医師・薬剤師共同薬物治療管理体制は、医師、薬剤師、患者並びに介護者の情報共有を円滑化するとともに、薬物療法の適正化をもたらすことが明らかとなった。したがって、この医師・薬剤師共同薬物治療管理体制は、地域医療における薬物療法の適正化及び介護負担の軽減に向けて、たいへん有用性が高く、地域包括ケアシステムの中で活用することに十分意義があると思われる。

本研究は、臨床薬剤学及び関連諸学科に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士（薬学）の学位授与に値するものと判定した。